

御社殿建替御奉賛のお願い

御奉賛趣意

刺田比古神社は平安時代の『延喜神名帳』等に記載された古社で、大伴氏の祖先神を祀り和歌山城の氏神様として、広く崇敬されております。御鎮座の岡の地は聖武天皇の離宮跡とも伝えられ、岡の宮としても親しまれております。

社殿は南北朝の戦乱、豊臣秀吉の雑賀征伐など数々の戦乱を蒙り、社殿を破壊されることもありましたが、そのたびに氏子崇敬者の尽力により復興したといえます。時の城主も鎮守の神様として崇め、江戸時代には初代紀州藩主徳川頼宣公が城の氏神様として修築し莊嚴をきわめたといえます。

氏神様、岡の宮様として永きにわたり、国家安泰を見守っていただいている刺田比古神社は、戦災の復興から五十有余年になります。昭和二十年七月の和歌山大空襲において、御神体のみをのこし、社殿神宝等失われましたが、昭和二十四年に氏子崇敬者の皆様の尽力により復興することができました。社会的にも経済的にも戦後の傷がまだ癒えぬ中、皆様の厚い敬神をもって、現在の本殿拝殿社務所の復興がなされたのです。以後も天災による被害を蒙りながらも、皆様の御協力により数度の補修をおこなうことができました。

いく度かの補修によりその容姿を保ってまいりましたが、戦前の威容を偲ぶ方々から、祖先神をお祀りする社として、かつての威容ある御社殿に戻してほしいとの声が集まりました。

千年以上にもわたる鎮守の神社として、国家安泰に尽力された大伴氏の氏神様として、戦前の境内を復興し御神霊を御安泰申し上げ、御神恩に報謝申し上げます。

つきましては、尊き御神縁に結ばれ、御敬神の念篤い皆様方には、何卒趣旨御賛同をいただき、格別の思し召しをもって、ご寄附ご協力を賜りますようお願いいたします。

計画概要

本殿建替

祝詞殿建替

拝殿建替

社務所建替

それに伴う境内設備

事業費用

二億円

和歌山市片岡町二一九

さすたひこ

刺田比古神社

〇七三―四二二―六五七六